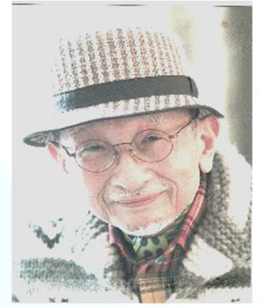


## 92才の人生を顧みて想うこと

北 18 期英語 野村富雄



私はこの9月で92才と9ヶ月の人生を迎える。  
よくここまで生きて来られたものと感謝の念で一杯である。  
生きたいと思っても、なかなか生きられるものではないからである。  
90才の峠を越えて初めて隠居しても良いかなと思う様になった。  
しかし、まだ、やらなければならない事は一杯残っている。  
残念な事にこの年になると、体力と気力が急勾配で落ちて行くものである。  
昔に戻りたいがもう遅い。老化と言うものだろう。  
どうしようもないものである。  
私の貧しい人生の中から人生観なるものを記してみよう。

1. 人生と言う舞台では、いつも自分が主役である。
2. 人生の道中に於いては、自分はいつも岐路に立たされている。  
決めるのは、自分自身である。
3. 幸か不幸かは自分の心が決める。
4. 自分の接する万物すべてから学び取る事が出来る。  
万物は先生、自分は学徒である。  
一生青春、一生勉強
5. 経験は人生を豊かにし、その人に自信を与える。  
何事もやってみよう。挑戦してみよう。
6. 第一歩を踏み出さねば何事も始まらない。踏み出す事は肝心である。
7. 失敗を恐れるな。失敗も良い教訓になる。  
少年時代、青年時代には、好奇心旺盛で失敗しながら新しい事を学んで来たではないか。
8. やらないで後悔するよりも、やって後悔する方が良い。
9. 俺がやらねば誰がやる。今やらねばいつ出来る。
10. 欲望は長生きの源である。欲望が衰えると老け始める。
11. 人生は長いようで短いものである。80年、90年はすぐ過ぎてしまう。  
光陰矢の如しである。
12. 人生の最後の仕上げは85才までに終えるべきである。
13. 90才からは一に健康、二に健康、三に楽しみ、喜びである。  
健康であってこそ人生は楽しい。
14. 年を取ると言う事は悲しい事ばかりではない。  
年を取って初めて分かる喜びもあり、楽しみもある。  
年を取って生き甲斐を見付けよう。
15. 結論として  
人生と言うものは自分の運命を受け入れながら  
今、自分の出来る事を精一杯やる事に尽きると思う。



\* 投稿者ご紹介 \*  
野村様は、同窓会大阪  
の設立にご尽力くだ  
さった方で、第3代  
会長もされた方です。